

# 中小に大企業の管理技術伝承

## ズバリ聞く

名古屋工業大学大学院教授

仁科 健氏

製造現場で問題に気づき、自ら考え行動できる人材を育成する「工場長養成塾」が先月、開校した。中部経済産業局から中部科学技術センターが委託を受け、名古屋工業大学、豊田自動織機、デンソー技研センターが協力、技術を持つ産業界と大学が手を組み、実践的なカリキュラムを構築している。塾長である仁科健・名古屋工業大学大学院教授に狙いなどを聞いた。

「(団塊世代の大量退) 職が始まる( )〇七年問題( )な問題となる。大企業は対応できなくなるが、中小企業では難しい。その時、中小企業は競争力をアップ

「(団塊世代の大量退) 職が始まる( )〇七年問題( )な問題となる。大企業は対応できなくなるが、中小企業では難しい。その時、中小企業は競争力をアップ

### 「工場長養成塾」の狙いは



「景気が好調なときこそ人材育成をすべきチャンス」と話す仁科教授

するの。塾では、大企業に自ら問題に気づき、曜日に大学で品質管理な業が持つ生産管理、物流、解決に向け考え、リーダーのゼミを受講するほ管理のノウハウを中小企業にシッパを發揮し、広くか、四グループに分かれ業へ伝承するため、地域展開できる工場長の育成で、各塾生の工場を教室

全体でサポートする体制を目指している」  
にしていきたい。コア技術の伝承ではなく、ムダ、ムラをなくす生産管理を学び、競争力をアップしてもらう。そのために自ら問題に気づき、曜日に大学で品質管理な業が持つ生産管理、物流、解決に向け考え、リーダーのゼミを受講するほ管理のノウハウを中小企業にシッパを發揮し、広くか、四グループに分かれ業へ伝承するため、地域展開できる工場長の育成で、各塾生の工場を教室

代わりを利用する実践など計二十一日、百四十八時間のカリキュラムだ。例えば、工場は各工場ともそれぞれ三回見学する。一巡目で課題を創出し、二巡目で解決に向け考え、三巡目で改

### ムダ、ムリ解消で競争力を

善を実践する。三回見ただけで、問題がすぐに解決するとは思っていないが、生産管理の本質である問題に対する「気づき」を体験してもらう」  
「これまで実施した工場見学では、その効果を感じることができた。受講生の業種は自動車部品製造から、機械、窯業、繊維、食品などさまざま。異業種のそれぞれ専門の目から見て、見学した工場のモノの流れ方や金型の段取りなど課題となる「気づき」を指摘する声が聞かれた」  
「評判は上々だが、来年度以降の取り組みは、今年度は中部経済産業局の委託を受けて行っているが、来年度からは名古屋が運営主体として実施していく予定。景気が好調なときこそ人材育成をすべきチャンスだ」